

東京 2020 に向けたアスリート・観客の暑さ対策に係る
関係府省庁等連絡会議(第 4 回)

議事概要

1. 日時：平成 29 年 6 月 19 日（月）9：30～10：10

2. 場所：内閣府本府 3 階特別会議室

3. 出席者：

丸川 珠代	東京オリンピック・パラリンピック担当大臣
＜構成員＞	
平田 竹男	内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会 推進本部事務局長（議長）
岡西 康博	内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会 推進本部事務局企画・推進統括官
黒田 亮	内閣府大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当）
猿渡 知之	消防庁審議官
大鷹 正人	外務省外務副報道官 ※代理出席
大山 真未	文部科学省大臣官房審議官（研究開発局担当）
木村 徹也	スポーツ庁審議官
橋本 泰宏	厚生労働省大臣官房審議官（健康、生活衛生、アルコール健康障害対策担当）
鈴木 良典	農林水産省大臣官房生産振興審議官
佐々木啓介	経済産業省商務情報政策局サービス政策課長 ※代理出席
増田 博行	国土交通省大臣官房審議官（道路局担当）
蝦名 邦晴	観光庁次長
加賀 至	気象庁総務部長
早水 輝好	環境省大臣官房審議官（水・大気環境局、放射性物質汚染対策担当）
瀧口 博明	環境省総合環境政策局環境保健部環境安全課長 ※代理出席
池田 俊明	東京都環境局次長
砂田 覚	東京都オリンピック・パラリンピック準備局施設担当部長
村里 敏彰	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 国際局長
三浦 幹雄	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 スポーツ局スポーツ企画部長 ※代理出席
井上 恵嗣	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 大会準備運営第一局長
福島 七郎	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 会場整備局長

4. 議事要旨

- ・冒頭、丸川東京オリンピック・パラリンピック担当大臣より挨拶。

【丸川大臣】

関東地方は、6月7日ごろ梅雨入りしたとのことですが、今日は30℃くらいまで気温が上がるということで、梅雨の間に暑い日が続いている。消防庁の発表によれば、本年5月1日から6月11日までの熱中症による救急搬送者数は4千人を超え、急激に暑くなったこともあり、昨年に比べ約500人ほど多くなっている。この時期の熱中症は体が暑さに慣れていないことがその一因だと言われている。

我が国を訪れる外国人の方々も年々増えてきている。比較的涼しい地域から来る外国人の方は特に注意を促すことが必要であり、2020年だけでなく今からあらゆる機会をとらえて熱中症予防等の情報発信を行っていく必要があると考えている。

また、障害者の方の中には体温調節が難しい方もいらっしゃる。車いすを使用する方は路面に近い分、輻射熱があるため、こうした障害のある方々への配慮というものも十分に考える必要がある。

2020年東京大会まで7月24日をもってあと3年となる。暑さ対策が今後、レガシーとなるよう、関係府省庁、東京都や組織委員会等としっかり連携し、ソフト、ハード両面の対策を着実に推進してまいりたいと考えている。引き続き、よろしくようお願い申し上げます。

- ・議事1について、事務局より資料1に基づき、「東京2020に向けたアスリート・観客の暑さ対策に係る関係府省庁等連絡会議の開催について」の一部改正について報告。
- ・議事2について、事務局より資料2に基づき、「外国人等に対する熱中症等関連情報の提供のあり方に係るワーキンググループの報告」について報告。

【事務局】

熱中症の英訳について、これまでは意識を失うような重症のものを指す「heat stroke」が使用されることが多く、それでは、日本ではそうした重症患者が毎年30~40万人も発生しているかのような誤解を与えかねないことから、今回、軽症の状態も含む一般的な熱中症については「heat illness」に統一した。今後、英訳の際にはご留意いただきたい。

- ・議事3について、各府省庁等より資料3に基づき、「関係府省庁等における取組状況」について報告。
- ・内閣府大臣官房審議官（科学技術・イノベーション担当）より、より精度の高い降雨量の3次元分布を高速に観測可能な気象レーダの開発・活用による豪雨・竜巻予測情報の高度化、水災害に対する観測・分析・予測技術の開発及び導入の推進について報告。
- ・消防庁審議官より、熱中症予防対策等の普及啓発の多言語化、救急隊用の多言語コミュニケーションツールの導入、聴覚・言語機能障害者を対象とした音声によらない119番通報の導入、外国人を対象とした119番通報の多言語化について報告。
- ・スポーツ庁審議官より、新国立競技場における、スタジアム内に風を取り込む「風の大庇」と「風のテラス」、観客席での体感温度を低減させる「気流創出ファン」、外部空間の温度を下げる「ミスト冷却装置」の整備について報告。
- ・厚生労働省大臣官房審議官（健康、生活衛生、アルコール健康障害対策担当）より、多言

語による啓発活動の推進、大会運営における応急体制の整備、医療機関における外国人患者受入れ体制の整備推進について報告。

- ・農林水産省大臣官房生産振興審議官より、壁面緑化等の暑熱対策技術の実証・研究等の効果についての情報収集及び情報提供について報告。
- ・経済産業省商務情報政策局サービス政策課長より、建物等の温度や体温の上昇抑制に資する技術シーズの活用可能性の検討状況、「観光予報プラットフォーム」を活用した暑さ情報の提供の検討状況について報告。
- ・国土交通省大臣官房審議官（道路局担当）より、「アスリート・観客にやさしい道の検討会」の提言内容についての報告があり、道路における暑さ対策をより丁寧に対応するためにも、コース選定等、時間的余裕をもって決めて頂きたい旨の発言があった。
- ・観光庁次長より、災害情報発信アプリにおけるプッシュ型による熱中症情報の発信、外国語診療が可能な医療機関情報の発信、訪日外国人向けリーフレットの発信について報告。
- ・気象庁総務部長より、気象情報の更なる予測精度向上や充実、外国人等に対する高温注意情報等の熱中症関連情報の発信について報告。
- ・環境省大臣官房審議官（水・大気環境局、放射性物質汚染対策担当）より、競技会場等12地区程度を対象とした暑熱環境の調査、「まちなかの暑さ対策ガイドライン」及び雨水等を利用した暑さ対策の効果検証について報告。
- ・環境省総合環境政策局環境保健部環境安全課長より、熱中症対策についてのマニュアル等の作成配布、熱中症対策に関するイベント等の開催について報告。
- ・東京都環境局次長より、マラソン沿道等の暑さ対策、医療機関における外国人受入体制の整備、暑さ対策に係る技術の検証及び導入促進等について報告。
- ・東京都オリンピック・パラリンピック準備局施設担当部長より、都が整備する競技会場の暑さ対策について報告。
- ・公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大会準備運営第一局長より、組織委員会の暑さ対策に対する考え方、検討状況について報告。
- ・議事4について、事務局より資料4に基づき、「東京2020に向けたアスリート、観客等の暑さ対策に係る関係府省庁等の取組」について説明。了承。

【内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局長】

暑さ対策の取組が一つ一つ形になってきている。2019年には対策を全部そろえてテストイベントに臨みたい。障害者の方や外国人への対応といったこれまでにない暑さ対策が2020年以降のレガシーとなると考えている。皆様の力を借りて、万全の準備を行い、日本のブランディングにネガティブな印象を与えないようにしたい。この夏、国民への普及啓発もやっていきたい。

- ・閉会